

いもう 葦毛通信



カザグルマ

平成 29 年 6 月 12 日
 豊橋市文化財センター
 豊橋市松葉町 3 丁目 1
 TEL: 0532-56-6060

No. 52

1、平成 28 年度葦毛湿原の動物調査

昨年に引き続き、2017 年の 3 月末までの一年間、自動撮影カメラによる動物の定点観察を行いました。平成 28 年度は 4 月 23 日に E 地点の段丘端部（L 地点の大きな沢の南側斜面の縁）から木の伐採を行った T 地点の二の沢に移動させました。撮影回数は延べ 147 回でした。平成 27 年度は 81 回でしたので、回数は約 1.8 倍に増加しました。

1、調査方法

平成 28 年度は、二の沢の T 地点で木を伐った範囲の西隅に自動撮影カメラを移動しました。平成 26・27 年度は水辺に近い環境に設置しましたが、場所を移動して水辺から離れた木を伐って明るくなったところに設置し、撮影される動物に違いがあるのかを確認しました。撮影方法はこれまでと同じで 24 時間自動で写真と動画撮影を行っています。実施期間は、前年から継続し、2017 年 3 月 31 日までのデータです。E 地点で 4 月 23 日までに 5 回撮影され、内訳はニホンノウサギ（2 回）、ニホンイタチ、シロハラ、ニホンカモシカ（各 1 回）です。これらは E 地点のデータですが、今回の一覧に含まれています。

撮影は、昼間はカラー、夜間はモノクロになっています。これは、夜間撮影時にカラー撮影するためには、フラッシュが必要になるので動物を驚かさないようにして、継続して調査をするためです。

2、調査結果

平成 28 年度は延べ 147 回撮影されました。内訳は表 1、図 1・2 の通りです。前年度の平成 27 年度（葦毛通信 No. 38・39）と比較して撮影回数は約 80% 増えましたが、全体の傾向としては大きく異なった点が見られます。

まず、平成

番号	種名	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	ニホンイノシシ	18				1	6	4	3		1	1	1	1
2	ニホンノウサギ	76	7	5	14	9	6	1	15			8	8	3
3	ホンドタヌキ	12		1	1	1	4	2						3
4	ホンドキツネ	1										1		
5	ハクビシン	9			1	1	1		1					5
6	ニホンイタチ	8	1									1	1	5
7	ホンドテン	0												
8	ニホンリス	0												
9	ニホンアナグマ	5			1	3	1							
10	キジバト	1						1						
11	コジュケイ	0												
12	シロハラ	1	1											
13	ニホンカモシカ	5	3	1		1								
14	ハシボソガラス	10		6	3					1				
15	ハシブトガラス	1		1										
	合計	147	12	14	20	16	18	8	19	1	1	11	10	17

表1 種別撮影回数一覧表

27年度は、7月が14回で撮影回数のピークがあり、6～11月が最も多い時期でした。平成28年度は6月の20回がピークで、前年よりも1.4倍になっており、6～11月が最も多い時期でした。前半は撮影回数が多かったので、このままいけば撮影回数が200回を超えそうだと予想していました。しかし、11・12月が各1回ずつしか撮影されず、回数が減ってしまいました（表1、図2）。

昨年も同じような時期に撮影回数が減少しましたが、平成26年度は減少しておらず、時期的なものかどうかも現時点でははっきりと分かりません。

撮影された動物の種類で最も多いのは、ニホンノウサギで76回（52%）も撮影されました。昨年は13回（16%）だったので、大幅に増えました。これは木を伐って開けたところに向けてカメラを設置したので、ニホンノウサギの生活に適した環境だったことが要因と考えられます。

ニホンイノシシは18回（12%）で昨年の34回（42%）から大幅に少なくなっています。これは、水辺から離れたことが最も大きな要因だと思われます。この2種類で全体の64%になり、昨年とほぼ同じような割合です。

これ以外は、ホンドタヌキ12回（8%）、ハクビシン9回（6%）、ニホンイタチ8回（5%）、ニホンアナグマ5回（3%）、ニホンカモシカ5回（3%）等です。

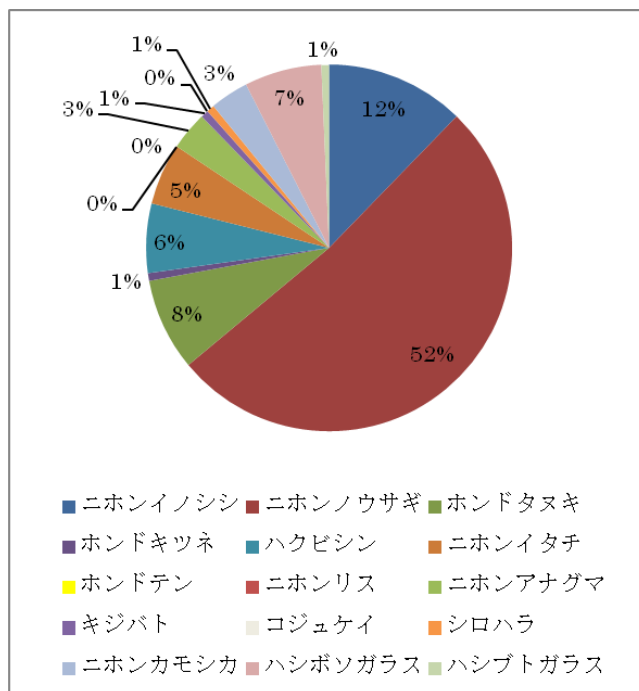


図1 種別撮影回数割合

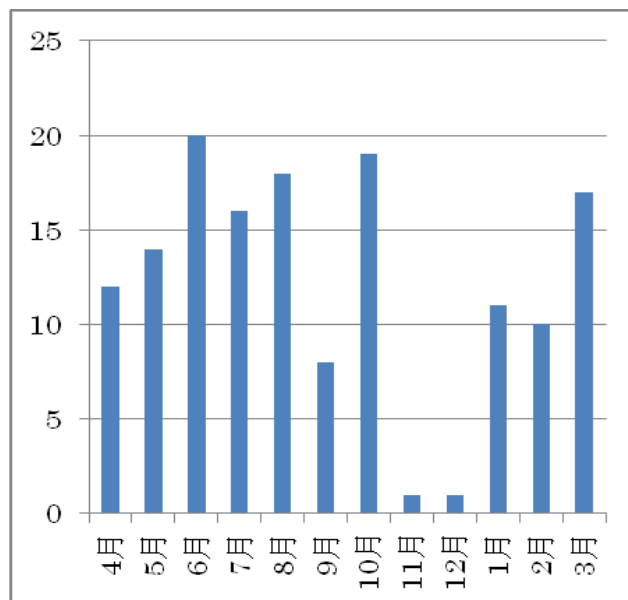


図2 月別撮影回数



ニホンアナグマ（2016年7月6日）



シロハラ（2016年4月21日）



ニホンカモシカ (2016年4月28日)



ニホンカモシカ (2016年5月7日)



ニホンイノシシ (2017年2月26日)



ニホンノウサギ (2016年6月20日)



ホンダタヌキ (2016年6月1日)



ホンドキツネ (2017年1月12日)

鳥類はキジバト、コジュケイ、シロハラ、ハシボソガラス、ハシブトガラスです。カラスが写ったのは5・6月だけで、たまたま開けた場所に来ただけのようです。

全体の傾向としては前年とほぼ同じですが、異なっている点は、E地点では見られなかったニホンアナグマが初めて確認されたこと、ホンダテン、ニホンリスが撮影されなかつ

たことです。水辺から湿地背後の開けた裸地に環境が変わり、写った動物にも変化が見られました。現在設置している二の沢は木を伐っただけで抜根していません。現在は伐採後2年目にあたり、ヒコバエが伸びて見通しが悪くなりつつあります。環境は常に変化しており、今後撮影される動物も変化するかもしれません。

3、ニホンカモシカ

ニホンカモシカは4月21日にE地点で写っていましたが、その他はT地点の二の沢です。ニホンカモシカは開けた場所が好きなようで、木を伐って明るくなった二の沢に降りてきたものと思われます。葦毛湿原に見学にこられた方で二の沢でニホンカモシカを見た方もいます。今年の5月18日11時頃には三の沢でニホンカモシカを見ました。若い個体で親離れをしたばかりなのかもしれません。20m程離れていましたが、立ち止まってしばらくこちらを見ており、目の前の植物の葉を1枚つまみ食いをして悠然と森の中に消えていきました。葦毛湿原のある弓張山地は南アルプスの南端にあたり、葦毛湿原の裏山の南側は台地になっており、その先は太平洋です。分布域は愛知県の最南端まで達しています。

2、イノシシによる攪乱

葦毛湿原ではニホンイノシシによる攪乱が毎年見られます。葦毛通信 No. 27 でイノシシの影響について報告しましたが、その後もイノシシによる攪乱は続いています。攪乱によりウメバチソウやトキソウが発芽しなくなるような悪い影響もありますが、これまで見られなかったところにトキソウやヒメミミカキグサが新たに発芽する良い影響も見られました。

右写真は葦毛通信 No. 42 で報告したE地点です。葦毛湿原で最初に大規模植生回復作業を開始したところで、完全に森林化していたところに、シラタマホシクサが川の流れるように復活したところですが、ここがイノシシに攪乱されました。掘り起こされてあちこちに小さな水溜りができました（右写真下）が、そのままにして経過観察しています。このような小さな水溜りは湿原内の複数の地点で確認されています。

一見するとイノシシに攪乱され無残な状態に見えますが、小さく浅い止水域はハッコウトンボの生息に適しているようで、葦毛湿原では少なくなったハッコウトンボが増える可能性も考えられます。



E地点イノシシ攪乱直後・現状
(2017年3月3日) (2017年5月31日)



E地点イノシシ攪乱拡大 (2017年5月31日)